

(様式4)

令和5年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度、生徒の心身両面のさらなる成長と魅力ある学校づくりを目指し、5つの重点項目と10の達成目標を設定し、実践した。

重点項目1（学習活動）の「授業内容の理解度」「学習内容を理解するための粘り強い取り組みの状況」について「5段階評価で4以上とした生徒の割合60%以上」の目標はおおむね達成した。授業改善の効果は現れていると言ってよいが、その一方で予・復習には十分時間をかけていない実態もあり、授業時間だけに留まらない学習意欲を喚起していきたい。

重点項目2（学校生活）の「生徒一人あたりの年間平均遅刻数1.0回未満」という目標は達成できており、全体としては落ち着いた雰囲気定着している。また「生徒が、悩みや不安に対処するための知識やスキルを獲得する」という目標は、講座・講演や保健委員会の取り組みによって一定程度達成したと言える。問題や悩みを抱える個々の生徒への対応については引き続き対策が必要である。

重点項目3（進路支援）の「自己の進路選択に活用するため、進路学習に積極的に取り組むことができたとする生徒の割合90%以上」、「進学補習・面接練習・個別指導などの進路支援に対して肯定的にとらえていた生徒の割合90%以上」という目標はともに達成しており、この高い数値を維持できるよう、今後も計画的な取り組みを継続したい。

重点項目4（特別活動）の「ボランティアに一度でも参加した生徒の割合70%以上」、「一日あたりの平均図書室利用者数15人以上」はいずれも目標に届かなかった。今後、生徒会や委員会活動などを通して生徒が主体的に活動・利用できるよう、改善を図りたい。

重点項目5（専門科目(家庭)）の「家庭科技術検定における合格率・取得率」に関しては、欠席のため不合格となった生徒がいたために、一部の目標は達成できなかった。しかし、「卒業時における生活文化科に対する満足度90%以上」については、「大変良かった」「やや良かった」で100%となり、目標を達成することができた。

今年度の10の達成目標の評価は、Aが4、Bが3、Cが3、Dが0であった。Cとなった目標については学校評議員からも意見・助言をいただいております、改善のためのさらなる取り組みが必要である。

7 次年度へ向けての課題と方策

次年度に向けての方策として、次の点が挙げられる。

- ・総合教育センター調査研究協力校として、昨年度・今年度とICT活用の実践を行った経験をふまえ、活用の機会をさらに広げるとともに、必要な情報を全教員で共有する。
- ・立山町との包括連携協定をはじめとする、地域と連携した活動をさらに推進し、生徒がより主体的に活動できるよう、効果的な取り組みの方法を考える。
- ・コロナ禍で途切れたボランティア活動の伝統を取り戻し、先輩から後輩へと活動の充実感を伝えていく流れを再構築するため、生徒会を中心に働きかけを行う。
- ・生活文化科の従来活動を継続することで生徒に充実感を持たせる一方で、教員の過度の負担を軽減できるよう、検定取得に向けての取り組みのあり方を検討する。

グランドデザインを柱として教職員の意識の統一を図り、入学した生徒が高い目的意識を持って学習や各種活動に取り組む学校を目指して、魅力ある学校作りを進めていきたい。